

ねぎ(夏どり)の黒斑病・葉枯病の発生が多い

～ 防除の徹底で被害の拡大を防止しましょう ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

7月1半旬の巡回調査(全県10地点)における黒斑病・葉枯病(斑点性病斑)の発病株率は2.1%(平年0.5%)で高かった(図-1、2)。

7月7日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予報されており、今後も被害拡大が懸念される。

2. 防除対策

- 1) 適正な肥培管理を行う。
- 2) 発病程度が大きくなると、生葉数が減少し、収量(太り)への影響が懸念されるため、発病初期の防除に努める。
- 3) べと病やさび病の発病や害虫による食害は、黒斑病・葉枯病の発生を助長するため、両病害の防除を行う。
- 4) RACコードが同じ薬剤は、耐性菌の出現を回避するため連用をしない。(表-1)
- 5) 使用時期及び成分の総使用回数に注意して、薬剤を選定する。(表-1)

3. 資料

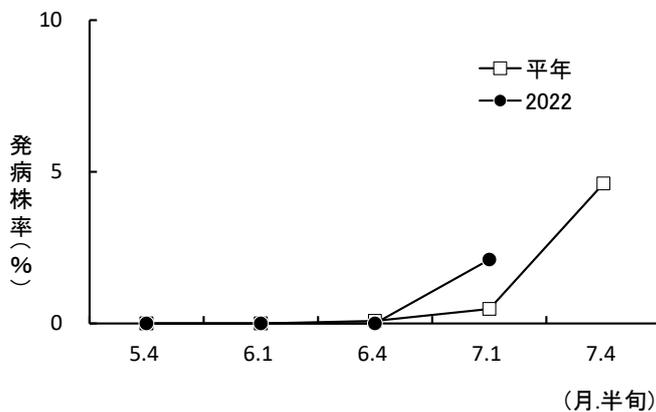


図-1 巡回調査における黒斑病・葉枯病の発病株率の推移



図-2 黒斑病・葉枯病(斑点性病斑)

表－1 ねぎの黒斑病及び葉枯病の防除薬剤

RACコード	農薬名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	各成分の 総使用回数	散布液量
7	パレード20フロアブル	3,000倍	収穫前日まで	3回以内	5回以内 ^{*1}	生育量に応じて100～ 200L/10aとする。
11	アミスター20フロアブル ^{a)}	2,000倍	収穫3日前まで	4回以内	5回以内 ^{*2}	
M5	ダコニール1000	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内	4回以内 ^{*3}	
3・M3	テーク水和剤	600倍	収穫14日前まで	3回以内	アイ	

*1：但し、灌注は1回以内

*2：粒剤は1回以内、水和剤は4回以内

*3：土壌灌注は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計3回以内

※同一符号は同一成分が含まれていることを示す。

ア：マンゼブ(3回以内) イ：シメコナゾール(3回以内(は種時は1回以内))

a) アミスター20フロアブルは近接散布するとねぎを湾曲させる薬害を生じる場合があるので、散布間隔を2週間以上とる。

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660

秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326

掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>